

# DISCLOSURE AND TRANSFORMATION: Why Disclosure of the UFO/ET Subject Matters

Copyright 1999 Steven M. Greer M.D.

## 公開と地球の転換： なぜ UFO/ET の主題を公開することが重要なのか

著作権 1999 年 スティーブン・M・グリア 医師

( [CSETIのウェブサイトより](#) )

次世紀に向かって疾走する世界の叫喚のさなかに、我々の未来を左右する巨大な秘密が、人類に知られることなく存在している。この秘密は、ありふれた風景の中に隠されているにもかかわらず、大部分の人々はそれに気付かないままである。この秘密は、大衆文化の中では広く論じられている - しかし、その重要性も意味も、依然としてとらえどころがない。

新たに出現したハイテク億万長者やインターネット長者があまたいる世界の中で、我々はいまだに 1800 年代からの遺物である基盤インフラ - 可燃燃料 - を使っている。しかもこの遺物は、おびただしい汚染の中、持てる者と持たざる者の格差が益々拡大する世界の中で、我々の未来を灰にししながら、人類の生存と可能性のすべてを脅かしている。

世界の上位 250 人の富が世界人口の半分の富に等しく、このまま進めば、大量の灰色スモッグの中で何らかの終末に行き着く他はない世界にあって、我々は宇宙で孤独ではない - またすでに訪問を受けている - ことが、どれほど重要なのか？

本当に、それはどれほど重要なことなのか？

その理由は、この秘密の中に大きな希望と展望があるからである。今の千年期が次の千年期になだれ込むこのときに、我々には一つの光景が見える。それは終末と絶望の光景ではない。我々に見えるのは、現在の閉塞的で絶望的に思える人類の諸問題が、別の世界へと転換されていく世界である。それは希望と持続可能文明の世界である。それは - 次世紀中に終末を迎える社会ではなく - 幾世紀にもわたり発展し続けることが可能な、地球規模の先進科学技術社会を実際に思い描くことのできる世界である。

良い知らせは、それを実現する方法を我々が知っていることである。その答はすでであり、輝かしい未来が人類を待つばかりになっている。残念な知らせは、無気力と無関心が充満する現在の環境の中で、これらの答が人々の目から隠されていることを我々が知って

いることである。それは隠れた未来である - それはすでにここにあるが、隠されている。我々はそれを引き出すだけの気力と強靱な精神を持っているだろうか？

今朝、私はこのようなことや他の多くのことを考えながら目覚めた。

このような目標を追求するために父親が 20 万ドルの年収を諦めている理由を、私の子供たちにどう説明すればよいだろうか？ このような情報公開への支持を取り付けるために、私は世界中を駆け回り、首脳たち、将軍たち、提督たち、さらには産業界の大物たちと会合を重ねた。私が引き受けたこの仕事の目的を、どうしたら伝えられるだろうか？ 私の最も親しい親友の一人と最も大切な同僚が、この目標を達成しようと奮闘しながら、この 1 年の間に世を去った。だから、私がこの仕事を中断することなど、どうしてできようか？ シャリ・アダミアクが癌と闘っていた同じ時期に、私自身も癌と診断された。それ以来、私は 'この人生で何をなすべきか？' を自分に問うている。

この 8 年間に、我々はこの展望を実現しようと努力してきた。もちろん、キャリアや金といったものを求めて、いわば通常の生き方をする方が容易ではあっただろう。しかしそれこそが、ほぼすべての人々がそのように生き、世界を今日見られる状態にしてしまった原因ではなかったのか？

だから、私の子供たちのために、この苦闘とその危険性について知りたいと思っている - また心配している - すべての人々のために、そしてまた 'わざわざどうして？' と訊ねるかもしれない人々のために、私は展望されるこの世界を語らなければならない：

**その世界では**、我々が宇宙で孤独ではないこと、実際にはすでに訪問を受けていることを人々が知る - 地球は突然に、広大な宇宙の中のとても小さな青い島となり、人類はすべてその上に住む家族となる。

**その世界では**、人々とその代表たちが、搾取勢力と権力の密かな濫用に立ち向かい、ついに民主主義と公正で自由な社会を実現する約束が果たされる。

**その世界では**、1 兆ドルの軍産複合体が転換され、世界のすべての人々を破壊するのではなく向上させるための推進力となる。

**その世界では**、人々の資金で賄われた闇のプロジェクトがその仕組みを解明し、使用可能になっている地球外起源の技術が公開され、すべての人々のものとなる。

**その世界では**、これらの進歩により、どの家も村も自らのエネルギー源を持つことが可能になる。そのエネルギー源は燃料を必要とせず、空気、水、大地を汚染しない。

**その世界では**、第三世界が、限られた資源とエネルギーコストがもたらす貧困から解放

される - その結果、第三世界は、北半球の繁栄国家群に混じって同等の地位を占めることになる。

**その世界では**、我々は、戦争のための新たな発射台としてではなく、探査と発見のために宇宙を利用する。

**その世界では**、我々の子供たちの子供たちの子供たちが、大規模な環境破壊という亡霊から解放されて生活し、成長する。

**その世界では**、地球とその住人たちが、他惑星の人々の仲間入りをし、数千年続く進化のスパイラルに合流する。

**その世界では**、現在ハイウェイの下に埋もれている数百万エーカーの肥沃な農地が解放され、より良い利用のために耕される。我々は、今はまだ地下施設にしまい込まれている装置に乗り、静かに浮遊しながらあちこちと移動する。

**その世界では**、無汚染-自立型のエネルギー源がそれぞれの家庭やオフィスで利用されるため、見苦しい送電線、発電所、核廃棄物が、不適切なものとして姿を消す。

**その世界では**、どの熱帯雨林も、生産力の低い農地や薪を得るために、伐採されたり燃やされたりする必要がなくなる。エネルギーと生産の手段が、その火炎地獄を永久に鎮火させるからである。

**その世界では**、多くの社会不安や苦悩を生む、過酷な貧困という大きな窮乏と不公平が、強欲のゼロサムゲームではなく、豊饒の文化に取って代わられる。

**その世界では**、他者を搾取することに代わり、人間の潜在力と心の探究が行なわれる。

**その世界では**、世界の人々が、神聖 - かつ普遍的 - な平和の強化を誓い、どの指導者、勢力に対しても他者への侵略、搾取を許さない、集団安全保障を実現する。

**その世界では**、人間であるか否かを問わず、すべての生命が人種、性別、その他の外面的性質によっては判断されず、その内面的あり方の本質ゆえに、等しく敬意が払われ、保護される。出身惑星がどこであるかさえ、問題ではない。

このような世界のために、何らかの努力は当然であり、ある程度の犠牲も正当化される。

我々があと一つ、最後の山を登り切ると、この光景が現実のものとなる。この世界を実現するために、我々は本当にあと一歩のところにいる。そのための手段はある。そのための技術は、すでに我々を待ちかまえている。なすべきことが何であるかは、明らかになっ

ている。世界は急速に結ばれ、有機的統一体に向かっている。

私の友人が、生前のフィリップ・コース大佐から直接聞いた話を、私に語ってくれた。1950年代か1960年代初めのある時期、大佐がホロマン空軍基地／ホワイトサンズ・ミサイル実験場にいたとき、1機の地球外宇宙機が着陸した。そのETたちと軍の間には交流が持たれた。ある時点でコース大佐は、典型的な米国軍人の流儀で、ETとの公然たる協力関係についてこう訊ねた：“私の方にはどのような利点があるのですか？” ETはこう答えた：“より良き世界だ - もしあなたたちがそれを手にすることができれば...”

さて、この話が本当かどうか、私は知らない。私はそこにいなかったのだから。しかし、それは宇宙が我々に言っていることとまさしく同じである、そう私は理解することができる：我々を待っている、より良き世界がある - 我々はそれを創造することができる。我々は、それを手にすることができるだろうか？

確かに、やってみるだけの価値はある。

スティーブン・M・グリア、医師  
CSETI（地球外知性体研究センター）総責任者  
バージニア州アルベマール郡  
1999年1月15日

（訳： 廣瀬 保雄）